

カトリック六甲教会 教会報

2011

6

No.474

平凡な時にこそ

協力司祭 ダニエル・コリンズ

復活の主日から始まった復活節は、40日目に主の昇天を祝い、50日目に聖霊降臨の主日を迎えて終了する。今年も聖週間の典礼は本当に素晴らしかった。特に復活徹夜祭では、ロウソクの光、パイプオルガンの音色、高らかな人の歌声がおのずと会衆の心を高揚させ、キリストの復活を心から祝う気持ちで満たした。そして、洗礼志願者であった人は洗礼によって、その他信徒は洗礼の約束の更新によって、神さまに向かって気持ちを新たにした。こうして毎年、荘厳で美しく、きらびやかな典礼を終え、私たちは非常に満足する。

そこで私が気になるのは、私たちは本当に神の働きをつかめたかどうかということである。人間はどうしても目に見えるものによって、神の働きを感じ取ろうとする。「セレモニーを通して、キリストの光を感じる」それは確かに典礼の大切な目的の一つであるが、そこに、目で見ること自体が目標になってしまう危険性、単なるセレモニーに終わる恐れがある。

復活祭が私たち信者にとって大切であることは間違いない。盛大に祝うのは当然である。しかし、それは信仰の終着点ではなく、出発点である。聖霊降臨の主日を終え、待降節が始まるまでの間、典礼暦においては平凡な期間が始まる。特別ではない、何も無いときに、神は私たちをより一層導いてくださり、何も無いからこそ、私たちも神の霊の動きをより一層感じるができると思う。私は常々「黙想」の期間、祈っている時よりも、祈りと祈りの間の時間が重要だと感じている。食事のとき、寝る前のひとときなど、祈りの時でない普通の時間にこそ、神の働きかけを感じるができる。

六甲教会は、新体制の「地区会」を基盤に、互いのつながりを強め、神の望まれる共同体に近づこうと新たな一歩を踏み出した。神の御心に沿うよう共同体の組織を変えることはたいへん良いことである。しかし、組織が変わったからと言って、私たちの心も変わる保証は何もない。組織を変えることに満足を得ただけで終わってしまわないよう、個人においても、共同体においても神の霊の動きを感じる事が、私たちの根本的な目標であることを忘れてはいけない。

神が私たち一人一人、そして、共同体としての私たちに何を言われているのか、どう導いてくださろうとしているのかを、何も無い平凡な時にこそ、感じ取っていきたいものである。



ナザレのイエスは、「神の国」の開始を告げ、それをもたらすことをご自身の生涯の務めとした。福音書によれば癒しの業を中心とする、いわゆる「奇跡」は「神の国」の到来の中心的な“しるし”とされている。

(1) 洗礼者ヨハネとイエスの関係：

洗礼者ヨハネは、徹底的な悔い改め（終末論的性格を強調）を説教し、そして、自分たちの罪を告白するものたちには、罪の赦しのために洗礼という預言的な象徴行為を執行した。イエスは、洗礼者ヨハネから洗礼を受け、それによって彼の活動の初めから罪人との交わりに入る。

洗礼者ヨハネ；

- ・ 神の国が近づいたので、裁きが来る前に悔い改めよ。
- ・ それは終末の恐ろしい裁きが近いと言う意味であった。

イエス；（あるところはヨハネと同じ言葉を語りながら、内実は大きく異なる。）

- ・ 神の国は、もう到来しているのだから、それに応えて悔い改めよ。
- ・ 神の国の到来は恐ろしい裁きではなく、むしろ神が罪人を愛しているという良い知らせを告げた。ルカ福音 15 章の三つの譬え話「見失った羊」「無くした銀貨」「放蕩息子」、マタイ福音 18 章には「「迷い出た羊」、これらの箇所には、神の愛が描写される。
- ・ イエスは進んで罪人と交わった。イエスは慈しみ深い愛の神の支配の訪れを説いた。

(2) 旧約聖書における神の国

旧約において、**神は王である**ことが根本的な主張である。詩編 24:7-10「栄光の王は神である」。神は宇宙万物を支配し、すべての民族を支配している。イスラエル民族は元もそのような神が直接王として支配していた国であった（士師記 8 章）。しかし、人々の要請によって、次第に王政を取るようになる。その第一の王が、ナタンだった。それ以後、王である者が神の仲介者であったが、民の代表者である人間の王は相応しい働きをしない者が多かった。そこでイスラエル民族に降りかかる度々の苦難から、神はまだ十分な指導性を発揮していないと考えた。そして、いつか神が王権を行使する時が来ることを希望するようになり、次第に未来志向になる。未来志向には二つの形があった。一つは**メシア期待**、いつかダビデのような理想的な王が遣わされて王たる神の支配が実現すると考えた（イザヤ 7:14,9:5-6,11:1-5）。これがメシア期待である。もう一つは**終末期待**、終末に神ご自身が直接に民を支配するという期待もあった（イザヤ 23&24,エゼキエル 34:13）。

(3) イエスの言葉に見られる「神の国」の特徴と人間に対する要請

① 「神の国」の特徴

神の国 ($\beta\alpha\sigma\iota\lambda\epsilon\iota\alpha$ $\tau\omicron\upsilon\theta\epsilon\omicron\upsilon$)。ギリシャ語で神が王として支配している領域を意味する言葉である。国と言うより領域と言うべきである。イエスは神の国の概念を紹介したのではない。神の国そのものをもたらした。イエスの生き方・関心事・人となり神の国である。そこで私たちは、神の国の概念を明確にすることよりも、イエスの関心事について明らかにすべきである。まず、イエスの関心事は何であったのか、その神の国の特徴とは何かをみる。

- ・ 譬えにおける神の国：
 - からし種など自然現象（マルコ 4 章）、人間生活の営み、畑に隠された宝など。
- ・ 癒し：悪霊を追い出して病者を癒す→これは解放の知らせである。

- ・ イエスの交わり：徴税人たちと会食を共にし、罪人との宴をもつ。
- ・ 貧しい人と子どもたちの国：貧しい人は幸いである。幼子のように・・・。ラザロの譬え。

② 福音書の神の国に関する思想を9項目に要約；

- ・ **イエスにおいて神の国がすでに開始** (ルカ 11:20:17-20)
イエスにおいて始まった神の国に入るために、人は福音を信じ、回心し、貧しくなり、子どもようになる必要がある。イエスは神の国そのものである。
- ・ **神の国の具体的な現れとしての奇跡**
神の国の具体的な現れとして、イエスの奇跡がある。イエスの行った様々な奇跡は、神の国の身体的で社会的な現れのしるしであり、人々を励ますものと理解される。
- ・ **神の国の連続と非連続**
神の国はすでに訪れ、始まっているが、その最終的な完成は世の終わりまで待たねばならない (マタイ 6&10&25:34)。現在の私たちの信仰や愛、行いや苦しみが終末の神の国の中で完全に実るのである。その神の国の連続と非連続の緊張関係の中に、私たちは生きているし、教会と歴史は、その中にある。
- ・ **神の国の到来の時期**
イエスは弟子たちが生きている間に来るとも言う (マルコ 9:1,13:28-30,マタイ 10:23)。しかし、現代歴史批判的聖書学者は、これらの言葉はイエスご自身の言葉ではないという。何故なら、福音書の別の箇所には、イエスはその時期を父以外、自分も含めて誰も知らないと言っている (マルコ 13:32)。誰もその時期を知らず、まったく突然に来る。
- ・ **イエスにおいて神の国が現実化**
神であるイエスが地上に来たのだから、地上にも神の国がきた。「イエスこそが神の国である」とオリゲネスは言う。神の国のあり方を考える際、決定的に重要なのは、イエスの現存との一致。イエスのいるところに神の国は成立している (ルカ 11.20)。
- ・ **イエスの死**
神の国の始まりは、イエスの死によって無効にされるものではない。再び弟子たちとぶどう酒を飲むことはないが、み国でまた一緒に飲むであろうとイエスは言う (マタイ 26:29)。イエスの死を通して神の国は到来する。
- ・ **イエスの復活**
イエスは復活することによって、王の座に着き神の王権を預かる者となった (マルコ 16:19)。イエス・キリストは世の終わりまで支配を続け、すべての敵を討ち滅ぼしたのち、父なる神にその国を返すのである (I コリ 15:20-28)。そのような復活したキリストこそ、私たちの信仰の根本である。
- ・ **共観福音書以外に出る神の国の思想**
共観福音書以外には、あまり神の国という言葉は出てこない。ロマ書 14:17 には、神の国についてのわかりやすい定義がある。それによれば神の国は、聖霊による正しさ・平和・喜びである。啓示憲章第1章4項は、イエスがもたらした啓示の内容を上手くまとめている。それによれば完全な啓示の内容は、死と罪の暗闇から人類を解放し、永遠の命へと復活させる神が共にいること。神の国が来るということは、神ご自身が来るという意味である。すべてを神に統合するために来るのであるから、それに反する死と罪は解消される (使 28:31,ヨハネ 3:5.ロマ 14:17)。
- ・ **み国と教会の関係**
この関係はイコールではないし、また全く別物でもない。教会はみ国の芽生えであり、発露である (教会憲章第1章5項)。教会は神の国を憧れながら、宣言し設立して広げていく一つの道具であり秘跡である。教会の中にみ国が始まっているというのは、ルカである。小さな群れである者よ、喜べ。神はこの小さな群れにみ国を与えたという (ルカ 12:32)。教会はこのように、キリストを宣教することを中心としながら、神の国の諸価値を社会の中で実現していく使命を有している。

主任司祭 松村信也



***** 典礼部からのお願い *****

- 1、最近、特にミサが始まる前、聖堂内・ロビーが騒がしく感じられます。
ミサの前、聖堂内・ロビーにおいては静粛にお願いします。
- 2、ミサで使用するカトリック聖歌集が少し不足しています。
各ご家庭に、お使いにならないカトリック聖歌集がありましたら、
寄付していただけませんでしょうか？

(典礼部・橘まで)

～地区会便り～

2011年度第3回地区役員会（2011年5月15日）議事録

地区会コーディネーター 橋岡

1. 地区会からのお知らせには今後通し番号を付けるので確認し、保存してほしい。
「2011-1」は2011年度1号の意味とする。
2. 小教区評議会報告
 - ① 神戸地区大会に各地区から15名は参加して欲しい。
 - ② 六甲小教区から東北大震災支援金（募金）額について
 - ③ チャリティーコンサート、宣教を考える集いについて
 - ④ 教会親睦会（新年会、初聖体お祝いなど）の費用は教会負担とする。
3. 地区連絡網の使用開始について
 - ① 5月16日より使用する。
 - ② 問題点が発生した場合はまず地区の中で対応、逐一の報告は不要であるが必要なものは次の役員会で協議する。
 - ③ メールシステムなどの作業についてはすでにお問い合わせしているように各地区のアンケートを回収したものを元に未登録のアドレスをシステムに登録する。
4. 教会のしおり配布結果
1086世帯のうち607を4月のミサ前後に配布済み。未配布の479については地区毎に対応するようにした。各地区ではすでに配布を終えているはずである。
5. 司祭歓迎会の報告
 - ① 灘西・中央地区より 会計報告。ケーキなど多くの寄付があった。教会報に記事を掲載予定。
 - ② 納涼については6月に行事部と打ち合わせし、その後7月の役員会にて決定。
6. 6月12日地区役員分ちあいは年次報告会終了後軽食を取りながら。
7. 神戸地区大会について（川合さんより参加依頼と記念Tシャツ申込み依頼）
8. 墓地清掃について
志水さんより・・・（墓地委員ではあるが個人的な意見として）以前は婦人会地区のお手伝いがあったが近年は婦人会役員のみでやっていた。共同体の墓地なのできれいにできるものならしていただきたい。墓地委員会の中でも個人で手入れをすべきという意見もある。
この件についてはコーディネーターで再度考慮し、また話し合いの場を設ける。
9. 各地区担当者の確認
 - 掃除責任者
 - 葬儀連絡
 - 三日月会誕生カード担当
10. そのほか
 - ① （川合さんより）しおりの配布を終えたが今後教会報についても同様に配るべきではないか。・・・ご自分で取られた方とそうでない方の区別がわからない。現在送付している方へはそのままお願いするが気づいた場合は地区で対応し、全戸配布ということは行わない。
 - ② 地区の中で新たに連絡が取れない人がいるので対応に手間取っている。・・・簡単に不明とせずその内容まで考えていくのが地区会であるが、とりあえず今年は行事、お手伝いなどのことをしながら地区全体でどのようにするか考えていくべきである。

次回地区役員会：7月17日

～地区会として始めてのお手伝い～

片柳神父様・コリンズ神父様の歓迎会(4月24日)

4月から喜びのうちに迎えしたお二人の神父様方の歓迎会、今迄はこのような機会は全て婦人会にお任せし、私達信徒はそれに甘えてきました。今年度からは教会の行事は全て地区会が交代で支えるということになり、早速、私達 灘西・中央地区がお手伝いする事になりました。未だ、連絡網も機能していない中で、役員、世話人、有志の方々、お子様と一緒にお手伝いくださったご家族等、20人程が集まり、テーブルは他地区の方々からの寄贈のケーキや三日月会からサーブ提供されたコーヒーと、子供達によって華やかに変身したイースターエッグも仲間入りし、機知に富んだ司会の進行によってシンプルではありますが楽しい歓迎会になったのではないかと満足しております。働きなれた婦人方と婦人の指図で後片付けを懸命にやってくくださった男性陣に感謝です。



(灘西・中央地区長 折川)

~~~~~

**カトリック六甲教会**

**東日本大震災**

**チャリティーコンサート**

**～心より出でて再び心に至らんことを～**



- 日時： 平成23年6月26日(日) 開場 13:30 開演 14:00  
入場無料
- 場所： カトリック六甲教会 主聖堂
- 演奏： ファウム木管五重  
声楽アンサンブル カメラータ神戸  
女声アンサンブル Cantate Domino (独唱：浅野純加)  
三浦 優子 (オルガン独奏)  
カトリック六甲教会聖歌隊 男声有志
- 曲目： J. S. Bach Wenn wir in höchsten, Ich ruf zu dir,  
Wohl mir, da ich Jesum habe (BWV. 147)  
J. Haydn Divertimento in B-dur  
W. A. Mozart Missa Brevis B-dur, Ave Verm Corpus  
F. Danzi Wind Quintets in B-dur Op. 56-1  
F. Mendelssohn Orgelsonate Op. 65-6  
G. U. Faure Salve Regina, Pie Jesu  
E. Colon Missa Lux in Kobe etc.

お問い合わせ：カトリック六甲教会事務所 078 (851) 2846



かな？という不安もあり悩みましたが、代母様の「共に歩んでいきましょう」の一言で勇気づけられました。

未熟な私ですが、皆様のご指導のもと一生懸命頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。神に感謝。  
ガブリエラ 藤原



<復活徹夜祭ミサ・洗礼式後、イグナチオホールにて記念撮影>

<行事報告>

## 初聖体・祝福式(5月1日)

片柳 弘史 助任司祭(教会学校担当)

今年もたくさん子どもたちが初聖体・祝福式の恵みを頂きました。社会全体の少子化が進む中で、毎年これだけたくさん子どもたちが集まってくれるのは本当に大きな恵みです。子どもたちの信仰養成という重責を担ってくださっている教会学校スタッフの皆さんに、改めて心から感謝したいと思います。

初聖体式は、幼児洗礼⇒初聖体⇒堅信へと進んでいく、子どもたちのキリスト教入信式の重要な一部です。成人洗礼の場合、この三つの恵みを復活徹夜祭のミサの中で一度に頂きますが、子どもたちは10年以上の年月をかけて少しずつこれらの恵みを頂いていきます。これは、幼児洗礼の前提である子どもたちの信仰教育が、円滑に行われるようにとの配慮に基づくものです。幼児洗礼の前に、ご両親は生まれてきた子どもを一人前のカトリック信者に育てていくことを約束しますが、教会は子どもたちの成長段階に応じて秘跡を与えることでご両親の信仰教育をサポートするのです。

秘跡の準備のために、教会学校と中高生会の役割が極めて重要であることは言うまでもありません。子どもたちの信仰養成という使命の遂行のため、さらに多くの方たちにスタッフとして、あるいは特別な行事のお手伝いとして教会学校、中高生会に関わっていただければと思います。

### “ 初聖体 ”

安田

ぼくは、はつせい体をうける時、すごくきんちょうしていました。さい後のロウソクに火をつけて、帰るのがこわかったです。さい後におやつやごはんを食べたら、きんちょうがとけました。はつせい体はおいしかったです。食べた後の気持ちは、ほんのりあたたかかったです。

安田（保護者）

赤ちゃんの時、私が御聖体を拝領するのを「自分もほしい！」と大声で泣いていた息子。「まだまだ遠い先の話だなぁ。」と思っていたのですが、子どもの成長は本当にあっという間でした。息子はいつの間にか「時期が来たら拝領出来るのだ」と納得し、そのときを楽しみに待っていたようです。そしてとうとう今年、初聖体を喜びのうちに迎えることが出来ました。教会学校でのお勉強、リーダーのご尽力に心から感謝いたします。ありがとうございました。これからも御聖体への、神様への憧れが止むこと無く、神様の子としてまっすぐ歩んで行くことが出来ますように。

## “ 祝福式 ”

寺本

- ① あまりミサをしたことがないのできんちょうしました。白いふくをきた時もっときんちょうしました。
- ② せいたいを食べれなかったのでごんねんでしたがしゅくふくされてかみさまが近くにきたような気がしました。

今泉

れん習したとおりにできるか、きんちょうしました。ゆきなちゃんとななみちゃんがせいしよを前でとても上手に読んでいました。私だったら、はずかしくて上手に、読めなかったかも……。ロウソクをもらい、たい場する時に、「先頭だから、しっぱいしないようにしなきゃいけないな。」と思いました。しゅくふく式で、しゅくふくをいただいて、とてもうれしかったです。

パーティもゆっくりしたかったけれど、学校の学院さいに、いそいで行ったのでごんねんでした。いつか、ごせいたいを食べたいなー。

毛利（保護者）

祝福式を終え帰宅し、その日の出来事を話していると娘から「感謝」という言葉が出てきました。もちろん今までに何度も聞いたり、使ったりしていたのですが自分の納得いく「感謝」というものにかわった瞬間だったのではないかと感じました。今の私達の生活のなかでもなかなか心底から感謝することが少なくなってきたように思っていたので、少々驚かされたと同時に私たち親にも神様が下さったお祝いなのだとおもいました。



## 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

### 📖 小教区評議会

6月12日(日)10時ミサ後 年次報告会

### 📖 三日月会

6月20日(月)14:00 ミサと例会

### 📖 教会学校

6月4日(土) 教会学校リーダー研修会

### 📖 地区会

6月12日(日)小教区評議会年次報告会終了後  
地区役員の分かち合い

### 📖 典礼部

1、「典礼奉仕者の集い」  
チャリティーコンサート開催のため、6月26日  
の日程が変更になりました。6月18日(1回目)  
は変更なく、教会「しおり」に掲載の通りで  
す。

日時：1回目 6月18日(土)10時～12時  
(第1・2会議室)

2回目 7月3日(日)13時～15時  
(第1・2会議室)

指導：片柳神父様

テーマ：「生活の中でミサを生きる」

ミサに関わるすべての奉仕者の集いです。  
両日とも同内容ですので、典礼奉仕者の方(案内係・お花係り・海星病院を含む)は、いずれかの日にご出席ください。

＜典礼奉仕者の皆様へ＞

5～7月「典礼当番表」記載の「典礼奉仕者の集い」の日程を誤ってお知らせしました。  
上記日程に訂正し、お詫びいたします。

### 2、聖歌隊練習日程

6月4日(土) 12時～15時30分(大聖堂)  
地区大会イベント歌練習

6月5日(日) 11時15分～11時50分(大聖堂)  
地区大会当日声出し等

6月12日(日) 9時～9時30分(ロビー)

6月18日(土)13時～15時(大聖堂)  
土曜集中練習

6月19日(日)9時～9時30分(大聖堂)  
ミサ後～12時30分(大聖堂)

冠婚葬祭練習

6月26日(日)9時～9時30分(大聖堂)

### 📖 社会活動部

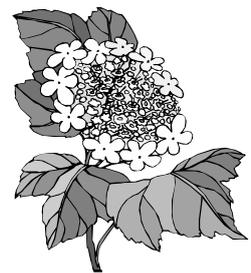
6月3日(金)初金ミサ後 連絡会

### 📖 広報部

7月2日(土) 教会報7月号発行

### 📖 施設管理部

6月26日(日) 部会



## 《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

### ★社会活動部より★

6月 1日(水)10時 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。

11日(土)10時 ♪炊き出し 小野浜グラウンド 配食やおじさんたちとの話し相手  
だけでもOKです。

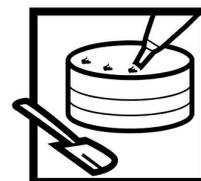
19日(日)10時ミサ後 ♪ミニバザー イグナチオホール 手芸品等の販売

26日(日)10時ミサ後 ♪手作りコーナー イグナチオホール お弁当・手芸品等の販売

27日(月)9時半 ♪ともしび会 お台所 養護施設の子供たちの為のケーキ作り

## ～～六甲教会で活動するボランティア・グループのご紹介～～ 「ともしび会」

養護施設の子供たちに手づくりのケーキを月に一度（お誕生会用に）つくり、灘区の愛神愛隣舎さん（デコレーション4台）、東灘区の信愛学園さん（デコレーション6台）にプレゼントしています。



今年で22年になりますが、子供たちの笑顔に支えられて、スタッフ14名、地域の方と一緒に楽しくつくっています。ケーキ作りのお好きな方、ご一緒につくられませんか？

6月の「ともしび会」の活動は、27日（月）教会お台所です。

（お問い合わせは社会活動部まで）



### ★養成部より★

#### 「祈りの道場」

テーマ：東北関東大震災に寄せて祈る  
～苦しみから希望へ、そして神の愛へ  
指導：英 隆一朗神父  
日時：2011年6月11日(土)  
10:00～14:45、15:00～ミサ  
場所：カトリック六甲教会主聖堂  
参加費：600円（昼食代）



#### 《祈りの道場へのお誘い》

「祈りの道場」とはどんなことをしているのか、とってはおられないでしょうか。忙しくしている日常から暫し離れて、教会の中で静かな時間を過します。まず始めに神父からその日のテーマと聖書のみことばの15分の講話を聞き、その後我々は沈黙の45分間を過します。一方、この間に希望者と神父との面談が（1人15分×3人）行われます。これが、昼食をはさんで4回繰り返されます。昼食も緊張が途切れないうちに、沈黙のうちに食べます。黙想の時間をどのように過したらいいのか、始めのうちは戸惑うでしょうが、そのうちに分かってきます。神父の講話に導かれ、過去の体験や今の自分の生活を重ねてみるのが一般的だと思います。沈黙の個人的な黙想ですから、他の人が何を思い巡らせているか分からないし、一人離れて別の場所で祈るのも自由です。いろいろやってみましたが、よく分からないのであれば、恥ずかしがらずに神父と面談してください。自分の心の内面を見つめ、神の恵みを感じ、神の助けがなければ人間一人では道を踏み外して間違った方向へ行ってしまう、マラナ・タ（主よ来てください）の祈りをしている自分を発見するかもしれません。目に見えない心の糧を得て、日ごろの疲れがいやすれ、明日への力をいただけるでしょう。

「喜びを抱く心はからだを養う。霊が沈みこんでいると骨まで枯れる。（箴言 17-22）」



## みんなの広場

### 「聖心の月」

ヨハネ 三好

5月は「聖母月」、教会の庭に聖母の御像を置きその前に集まって祈る「聖母の集い」があった。聖木曜日には、聖金曜日の祭式まで聖体の前で祈り続ける「聖時間」。「聖体の祝日」には聖体を捧持して街を練り歩く「聖体行列」や顕示された聖体の前で祈り続ける「聖時間」。そして。■カトリック教会では聖霊降臨祭後第二週の金曜日を「(至聖なる)イエスの聖心」の祭日として祝う。このため、6月は聖心の月とも呼ばれる。十字架上のイエスのわき腹から血と水とが流れ出た(ヨハネ19章31-37)という証言から、神様がどれほど人間を愛し、そのために傷ついたかを想起させ、人が同じ愛を生きるように励ますのである。■聖心の出現…1673年12月27日、フランス中部パレルモニアル Paray-le-Monial の訪問会修道院聖堂で、マルガリタ・マリア・アラコク Margueritte-Marie Alacoque にキリストが出現する。傷だらけになって愛する自分の心を示しながら、キリストはその愛に応える人が少ないことを告げた。以来、フランスからはじまって全世界に「イエスの聖心」の信心が広まっていく。1856年、教皇ピオ9世は全世界をイエスの聖心に奉献した。

( <http://www.paris-catholique-japonais.com/cours/cours27.htm> )

主は、聖心の信心に励むものに対して次のような約束をされた。

わたしは彼らの職務に必要なすべての恵みを与えるだろう。

わたしは彼らの家庭に平安をおくる。わたしは彼らの苦しみに当たり、彼らを慰める。

わたしは彼らの一生の間、ことに臨終に際して、彼らの確かな隠れ場となるだろう。

わたしは彼らのすべての事業の上に、豊かな祝福をおくる。

罪人はわが心のうちに、憐みの源と限りない恵みの大海を見出すだろう。

信仰のにぶい人は熱心になるだろう。熱心な人々は高い完徳に進むであろう。

わが心の姿があらわに飾られ、かつ尊敬されるすべての場所を祝福しよう。

わたしは救霊のために働く人々に、もっともかたくなな心をも感動させる力を与えよう。

この信心を広める人の名は、わが心に書き記され、かつそれは決して消し去られることない。

わたしは、わが心の溢れる憐みによりあなた(聖女マルガリタ)に約束する。

すなわちその限りない愛は、月の初めの金曜日に九回続けて(九か月間続けて第一金曜日に)聖体を拝領する人々に、最後の痛悔をする恵みを与えよう。彼らは聖寵を失ったままで死ぬことなく、わが心は、その臨終の時、彼らの確かな隠れ場となるであろう。

このメッセージは1765年クレメンス十三世教皇から公に承認され、1856年ピオ九世教皇は聖心の祝日を定めて、全世界においてその式典を行なうように命じられた。今日、初金と言われ、ミサにあずかり、聖体を拝領する習わしはそこから来ている。( <http://yas.homeunix.net/avemaria/devotion.html> )

マリガリタの霊的指導司祭であったイエズス会士聖クロード・ド・ラ・コロンビエール(1641~1682; 1929列福; 1994列聖)も聖心の御出現を受けました。聖心の信心はそれ以後急速に訪問童貞会の修道女やイエズス会の司祭たちによって広まり始めました。( <http://www.d-b.ne.jp/mikami/sacredh.htm> )

長く日本でイエズス会の修練長、管区長、後にイエズス会総長になられたペドロ・アルペ神父も「御心」の使徒であった。(ペドロ・アルペ=ホアン・カトレット、新生社2000)。

主は今もわたしたちの中に居られる。



大阪教区で

**【ENGOプロジェクト】始まる！**

**E (遠方の) N (仲間に) G (元気を) O (大阪から)**

- 大阪の地で仙台教区サポートセンターを支えるためのプロジェクトです。
- 大阪教区ホームページに「ボランティア申込み」等、随時情報が掲載されます。
- 情報とお問い合わせは、 Tel. 090-5258-5704 (月～金18～21時)

<http://www.osaka.catholic.jp/engo.html/>

|                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報7月号の発行は、7月3日(日)です。<br/>         編集会議は6月26日(日)です。<br/>         記事原稿は、6月19日(日)正午までに信徒会館<br/>         受付へご提出願います。(広報部)<br/> <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p><b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b><br/>         〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21<br/>         電 話 078-851-2846<br/>         F A X 078-851-9023<br/>         発行責任者 松村信也 神父<br/>         編 集 広 報 部</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|